

様式1

令和3年度 学校評価表

学校教育目標		凛とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成										
a ミッション	主体性を育み人間力を高める探究的な学習の推進			a ビジョン			職員が笑顔で生徒の前に立てる学校					尾道市立長江中学校
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	評価計画		自己評価					学校関係者評価		改善計画
			e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イロハ	l コメント	m 改善案
凛とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成	○主体性を育む探究的な学習の推進 ～知的好奇心を喚起する授業実践～	・各教員、年1回以上の研究授業実施 ○学習内容の確実な定着～知的好奇心を喚起する授業実践～ ・各教科1単元以上の単元開発（更新） ・小中の接続を意識した総合的な学習の時間の単元開発	①生徒アンケートの「授業では解決しようとする課題について『なぜだろう』、『やってみたい』と思います。」旨の間に肯定的に回答している生徒の割合（昨年度86%） ②全国学力・学習状況調査における全教科平均通過率（昨年度：県差+7.8P） ③英語能力判定テストにおける当該学年英検レベル到達生徒の割合（昨年度：3級（3年）70%、4級（2年）80%） ④小中の接続を意識した総合的な学習の時間の授業時間（今年度新規）	①90% ②県差+8P ③3級（3年）70% 4級（2年）80% ④9/15に公開	83.7% 9月以降公開 （3年）66.3% （2年）86.2% 一	79.7% +5P (2年) 2学期実施 校内研究会に替えて実施。	91.4	B	○前期比▲2.7%、学年が上がるほど肯定的評価減の傾向。 ○生徒アンケート（12月）結果のうち関連項目「授業では「できた」「わかった」と感じことがあります」の平均値87.4% ○県平均通過率比：国語+3P、数学+2P、算数合計+5P ○数学は「数学的な見方や考え方について記述すること」に課題有り。 ○当該学年のうち、3級レベル到達割合は50.0%、5級レベル以下は13.8%。 ○コロナ禍のため校内研究会に替えて実施。今後とも長江小と連携の継続を実施。	3	○評価指標に基づいた達成値により示されたミッション「主体性を育み人間力を高める探究的な学習の推進」に迫ることができている。 ○設定された評価指標および目標値に達成未満に該当する生徒へのきめ細やかな指導を期待する。 ○調査結果を精査し、特に領域別の課題について分析を実施。通過率の低い生徒への背景分析と個別に対応できる指導方法の検討にあたる。 ○結果資料をもとに領域、設問等の通過率状況の分析を実施。分析結果をもとに指導方法の工夫・改善を実施。 ○研究授業後の授業参観者へのフィードバックを充実させるために、研究協議のツール、工夫点を指導案に明示する等による研究協議の工夫を図る。	○生徒アンケート結果を精査し、否定的評価に該当する生徒の状況分析及び個別に対応できる指導方法の検討にあたる。
	○人間力を高める教育実践（含：自己肯定感の向上）	・生徒が主体的に企画する挨拶運動等への支援 ・生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の間に肯定的に回答している生徒の割合（昨年度88%） ②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の間に肯定的に回答している教師の割合（昨年度100%） ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の間に肯定的に回答している生徒の割合（昨年度70%）	①90% ②100% ③80%	89% 100% 74.0%		96.0	B	○概ね目標値と同値。生徒の実態や状況により挨拶の意義等にふれた指導を学校生活の全ての機会を捉えながら長期的なスパンで実施していく。 ○全員、挨拶の実施と各業務等を開運付けながら工夫された指導を実施。生徒アンケート結果の生活に係る項目の肯定的評価の数値向上に寄与。 ○行事等の工夫により3学年において数値の向上を果たす。 ○学年、生徒指導担当、SC、SSW等との連携により生徒の実態を共有する場設定し指導にあたる。今後は個に応じた指導体制を構築する。	3	○コロナ禍の中ではあるが、生徒の部活動、学校行事の活躍をうかがい知ると共に、地域から生徒の好ましい行動についての声が届く。小学校が敷地内併設に伴い、今後ともより学校風土の醸成を期待する。 ○評価指標「自分には良いところがある」旨において3学年の数値向上が見られたことを特に評価したい。	○委員会活動を主とする特別活動、道徳、総合的な学習の時間等、全ての教育活動をとおり、挨拶の意義、意味について指導を継続していく。 ○学級活動、部活動指導を通じ、生徒の挨拶に對し肯定的評価を継続実施。 ○行事やキャリア教育、進路学習をきっかけとし、自己と学級・学校や社会との関わりについて考えさせ、自己の良さ、集団への寄与について相互評価させる場を工夫する。
	○職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の実践 ・行事等の精選	①月あたりの時間外勤務時間が80時間超の人数の割合（昨年度0%） ②月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の人数（昨年度4名）	①10%未満（4~12月平均） ②2名以上（4~12月平均）	5.3% 4人	0% 4人	150.0	A	○時期により、時間外勤務時間が増加する傾向あり。今後、当該者へ聞き取り・面談を計画的に実施（週1回ペース）、個別業務の精選、省力化の工夫を提示していく。 ○働き方改革アンケート（令和3年度第2回）結果「項目「児童・生徒と向かい合う時間が確保されている」83.3%（市平均比+3.3）。11項目中、80%以上の項目は9項目。	3	○新型コロナ感染拡大の収束が見えない中、時間外の勤務時間も時期により増加が示された。教務支援員の先生方をはじめ、SC、SSW等の先生方との連携をとり、業務改善への向上を期待する。 ○コロナ禍の中ではあるが、教職員の表情は大変明るく活き活きとしている。教職員の存在がミッションへのベースである。	○該当職員に面談を実施し、個別業務の精選を実施する。 ○学校環境整備の推進、文書・データ管理の工夫を図りながら業務の省力化を図る。

【自己評価 評価】
A：100%（目標達成）
B：80%（ほぼ達成）<100%
C：60%（もう少し）<80%
D：（できていない）<60%

【外部評価】 イ：自己評価は達正である。ロ：自己評価は達正でない。ハ：わからない。